



歩様確認の後に田中調教師から  
隅々まで馬体のチェックを受けるアスティ



## 小島友実の あの馬の STORY

### アスティ

一口愛馬生活を送りつねる。一頭の馬が「アスティ」の名前での経過は決して容易い事ではない。わかつますよな。育成が始まったと思つたり、脚の不調の症状がでて調整のペースを落したが、入厩したもののが疲れがでて再度、放牧でたり。馬は生き物ですから、どうしてやうな状況が起つて事がありま。

かつてケコーンファームに所属し、エリザベス女王杯を勝ったクイーンズブライアンの5番仔として注目されて、アスティのデビューまでの過程も決して順調ではありませんでした。管理するのは騎手時代に自らの手綱り母をエリザベス女王杯勝利に導いた田中博康調教師です。

「育成時代は、左ト右の骨漏など、の症状があり、なかなか順調にいきませんでした。しかし牧場で上手くケアをして頂き、時間をかけて心も體も鍛えたので、今年4回に美浦へ入厩した際には馬体のハリが立つようになりました。仔なりに随分成長したな」と印象でしたね」

「調教の走りはなかなかカーピーで、が速くなつて来ないのが現状ですが、心肺機能は強いつで、中身は出来てつる印象でした。短距離向きではない、出走メンバーを見てもチヤンヘがありそうな新潟の芝2000mがいいだろとなつた訳です。気持ち面でかなり幼い面があるのです」「ソシンカーを装着しました」

「その初戦は着てこつた」

「スタートはあのくらい出れば許容範

の進んで行きましたし、直線はいかが思ひました以上に伸びておった。持つての能力は高じて感しましたな。心肺機能が高い馬と母のクイーンズブライアンが一馬であるから血統背景は望んで持つて送りましたしだが、初戦としては上々の内容だったし思つます」

初戦の後、厩舎に滞在してから聞き

6月11日、田中厩舎を訪ねました。担当の田端誠持ち乗り調教助手にお話を伺いました。

「この厩舎は週に1回、午後に入厩させたりして、馬のじつけや扱い方を積極的に学ぶ場を設けています。アスティは昨年一度入厩してた時は勝手に立ち上がりたりするなど、凄く幼い仕草が田立かねましたが、最近は指示通りに歩けり、止まれるようになつてしまつた。また気性面の成長の他に、馬体のハツなしも日に日に良くなつてきてつるが手に取るやうにわかります。」の辺つねすがは限血馬だなと感じますね。田中調教師にじつて思い入れの大きい馬ですから、おがは一つ勝つて、長く厩舎で活躍できるようになりたい。時間がなじの間で合ひつきでありますね」

田中調教師は、馬に対する想いを語りました。

「この2戦の内容から、能力がある」とは間違ひありません。私の騎手人生の中でも一番思い入れのある馬の子供ですからね。おがは一つ勝たせこあけられるむつに、厩舎一丸じなつて取り組みます。血統的に長距離が合つてるので菊花賞を諦めてしまうかもしれません。まだまだ良化的余地があるが、一つ勝てば選択肢も広がりますからね。応援よろしくお願ひします」

「最近、良血馬らしい段々良くなつ

つもしてつらじがアスティ。持つてボテ

フシヤヒ期待してますね」

この取材の後、6月15日の東京ダート2100m戦に出走したアスティ。この日は雨模様で水が濁りながらの「フネ」になつて、馬群から脚を伸ばしたもののが着でした。

「レースは真面目に走つてくれて、今回も力を出し切られた。でもペースが流れで厳しい展開でしたね。もうと距離があれば自分で動いていくと思います。」の後は脚元に問題がなければ予定通り、福島の秋の1000m戦(7月13日)で、馬群から脚を伸ばしたもののが着でした。

「この取材の後、6月15日の東京ダート

2100m戦に出走したアスティ。この日

は雨模様で水が濁りながらの「フネ」になつて、馬群から脚を伸ばしたもののが着

でした。

この取材の後、6月15日の東京ダート

2100m戦に出走したアスティ。この日

は雨模様で水が濁りながらの「フネ」になつて、馬群から脚を伸ばしたもののが着